

主題：信徒

メッセージ 12

彼らの象徴——栽培されたオリーブの木の枝

聖書：ローマ 11:17-24. I コリント 6:17. ヨハネ 15:1, 4-5

- I. 信徒は栽培されたオリーブの木の枝です。ローマ第 11 章 17 節の栽培されたオリーブの木とは、キリストを命またすべての実際とする、神の選ばれた種族であるイスラエルです—— 9:4-8。
- II. 栽培されたオリーブの木の枝として、信徒は接ぎ木された命を生きます—— 11:17. 6:5 :
 - A. 聖書は、神が人と持つことを願っている関係が、彼と人が一になることであることを啓示しています—— I コリント 6:17 :
 1. 神は神聖な命と人の命が共に結合されて、一つの命になることを願っています——ヨハネ 15:1, 4-5。
 2. この一は有機的結合、命における結合、すなわち接ぎ木された命です。
 - B. 接ぎ木において、二つの似た命が結合され、共に有機的に成長します——ローマ 11:17-24 :
 1. 接ぎ木は、接ぎ木される命が似てはじめて効果があります。
 2. わたしたちの人の命は神聖な命に似ています。ですから、神聖な命と人の命は共に結合され、共に有機的に成長することができます——創 1:26. 2:7。
 - C. わたしたちがキリストの中に接ぎ木されるために、彼は肉体と成ること、十字架、復活の過程を経過しなければなりません——ヨハネ 1:14, 29. 2:19-22 :
 1. キリストは肉体と成ってダビデの種、ダビデの枝となりました。それは、わたしたちが彼と共に接ぎ木されるためです—— 1:14. マタイ 1:1. ゼカリヤ 3:8. エレミヤ 23:5. 33:15。
 2. キリストは十字架上で「切られ」、復活させられて命を与える霊と成りました。それは、わたしたちが彼の中に接ぎ木されることができるとためです—— I コリント 1:30. 15:45 後半。
 - D. 再生された者として、わたしたちは接ぎ木された命、すなわち、二者が結合されて有機的に成長する命を生きるべきです——ヨハネ 15:1, 4-5 :
 1. わたしたちはキリストの中に接ぎ木された後、もはや自分自身によって生きるべきではありません。むしろ、霊なるキリストに、わたしたちの中で生きていただくべきです——ガラテヤ 2:20。
 2. わたしたちはもはや自分の肉によって、あるいは天然の存在によって生きるべきではありません。むしろ、再生された霊、キリストに接ぎ木された霊によって生きるべきです。
 - E. 接ぎ木された命は交換された命ではなく、人の命と神聖な命のミングリングです—— 20 節. ローマ 6:3-5. ヨハネ 15:1, 4-5。
 - F. クリスチャンの経験における最もすばらしい実際は、キリストにある信徒が命の方法でキリストに結合されることです。
 - G. 接ぎ木された命の中で、人の命は消されるのではなく、神聖な命によって強化され、引き上げられ、豊かにされます——ローマ 11:17-24 :

1. 接ぎ木された命の中で、枝はなおも同じ本質上の特徴を保持していますが、その命はさらに良い命に接ぎ木されることによって引き上げられ、造り変えられます。
2. 接ぎ木された命の中で、神聖な命は神の当初の創造を復活させます——ヨハネ 11:25 :
 - a. 神聖な命は消極的な事柄を排出するとき、働いて神の当初の創造を復活させます。
 - b. このようにしてわたしたちの当初の機能、創造の時に与えられた機能は、復興され、強化され、豊かにされます——ガラテヤ 2:20。
3. 接ぎ木された命の中で、わたしたちの機能は引き上げられます——エペソ 4:23。
4. 接ぎ木された命の中で、神聖な命はキリストの豊富をわたしたちの内なる各部分に供給して、わたしたちの全存在に浸透します——ローマ 12:2. 8:29-30。

Ⅲ. 栽培されたオリーブの木の枝として、信徒は命の感覚によって生き、命の交わりを享受し、命の光の中を歩きます——6節. I ヨハネ 1:2-3, 5, 7 :

- A. 命の感覚は、わたしたちの内側にある神聖な命の感覚、意識です——ローマ 8:6. 参照、エペソ 4:18-19 :
 1. 命の感覚の源は、神聖な命、命の法則、霊性、わたしたちの中に住むキリスト、わたしたちの中で活動する神です——ローマ 8:2, 9-11. ピリピ 2:13。
 2. 命の感覚は、わたしたちが天然の命の中で生きているか神聖な命の中で生きているか、肉の中で生きているか霊の中で生きているかを知らせます——ローマ 8:6。
 3. 接ぎ木された命の中で、わたしたちは正しいか間違っているかの原則にしたがってではなく、命の原則にしたがって生きるべきです——創 2:9, 16-17。
 4. 命の感覚に従おうとするなら、落ち着き、安定した、性急でない方法で生きる必要があります——ヨハネ 14:27. 16:33. I テサロニケ 5:23. II テサロニケ 3:16。
 5. 命の感覚はわたしたちを導き、支配します——ルカ 1:79. 箴 21:1。
- B. 命の交わりは、神聖な命を受けた信徒の内側にある永遠の命の流れです——I ヨハネ 1:2-3. 使徒 2:42. I コリント 1:9. 啓 22:1-2 :
 1. 命の交わりの手段は聖霊であり、命の交わりの場所はわたしたちの霊の中です——II コリント 13:14. ピリピ 2:1. II コリント 6:6。
 2. 命の交わりの機能は、神聖な命のすべての豊富をもってわたしたちを供給することです——啓 22:1-2. ヨハネ 15:1, 4-5。
- C. 光の中を歩くとは、光の中で行動し、存在することです——I ヨハネ 1:7。
 1. 光と命は常に共に行きます——詩 36:8-9. ヨハネ 1:4. I ヨハネ 1:1-2, 5, 7。
 2. わたしたちが光の中を歩くとき、神聖な事柄はわたしたちの実際となります——5-7節。
 3. キリストは命としてわたしたちの中に入って来るとき、わたしたちの内側で光として輝き、光は神聖な要素を実際としてわたしたちの中にもたらしめます——ヨハネ 8:12, 32。
- D. 接ぎ木された命の中で、神はわたしたちになり、わたしたちは彼になります。すなわち、わたしたちは神格においてではなく、命と性質において彼であるのと同じになります——I ヨハネ 4:15。